

ファイト

No.30

通算戦績:24戦19勝(7KO)4敗1分

2016年を振り返って 2戦2勝! 日本8位、東洋12位

大が高校生プロボクサーとして17歳で後楽園ホールのリングデビューしたのは2006年9月だった。それから10年の歳月が流れた。アルバイトをしながらの選手生活は自己規制とストイックな生活の連続だった。途中、東日本新鋭賞を2回受賞し、WBC世界ユース・シルバータイトルも獲得したが、満を持して臨んだ昨年の東洋太平洋タイトルマッチに敗戦し、再スタートをきった直後の網膜剥離手術は大の精神的な成長の大きな契機となった。

大はその試練を乗り越え、精神的にもひとまわり大きくなり、今年は2戦2勝という結果だった。大は自分が目指すボクシングが徐々に出来るようになってきている。

今年6月の再起戦まで10ヶ月リングを離れたため東洋太平洋ランキングからは一旦外れたが、11月期で12位に復帰し、日本ランキングも8位まで上がってきた。主戦場をスーパーフェザー級からフェザー級へと移し、来年はさらなる飛躍の年となるだろう。



2016.6.9.後楽園ホール

6月9日、第23戦、 林崎智嘉志選手 3ラウンドKO勝利

対戦相手の林崎智嘉志選手(八王子中屋ジム)の戦績は13戦7勝3KO5敗1分。大は圧倒的な力の差を見せつけての勝利だった。

試合展開

最初から林崎選手は積極的に出てきた。直線的に出てくるため大は左右に変わりながら左ジャブ、右ストレート、左ボディを的確に決めるスタートとなった。2ラウンドに入っても距離を制御し、左右ストレートを決め、何度も林崎選手の顔面にヒットする場面が展開された。3ラウンドは、開始早々の偶然的なバッティングにより一時中断したあと、大の右クロスが林崎選手の左こめかみにヒットし強烈なダウンを奪った。レフェリーのカウント最中にセコンドから早々とタオルが投入され、あっけなく試合終了となった。

当日は10ヶ月ぶりの後楽園ホールだった。入場曲の『エイトマン』も、ワンフィンガーの編曲で軽いタッチの曲に乗り、思ったより落ち着いたリングインだった。

大にとって第2ステージのスタートとなった試合は体幹が安定しパンチ力も数段増していた。試合が早々と終了したこともあって、殆どダメージを受けておらず好スタートを切った。

岩井 大 ファンクラブ機関紙(年4回発行)

発行者:岩井 淑

住所:〒262-0032

千葉市花見川区幕張町4-2 LM3-104

連絡先:Tel:043-272-0825 Fax:043-272-0825

URL: <http://kuchan.ec-net.jp/index.htm>

Mail: iwai-8man8@marble.ocn.ne.jp



2016.10.25.後楽園ホール

10月25日、第24戦、 篠原武士選手 8ラウンド判定勝利

6月9日以来、4ヶ月ぶりの後楽園ホールだった。対戦相手の篠原武士選手(全日本パブリックジム)の戦績は12戦7勝7KO4敗1分の強打とKOが売り物の選手だったが、大の完勝だった。

試合展開

前半、篠原選手は自らの強力パンチを十分意識し積極的に出てきた。大は左ジャブを出しながらの様子見だが押され気味のスタートだったが、左ジャブを出しながら徐々にエンジンがかかりだした。ラウンドを重ねるごとに右ストレートが篠原選手の顔面を捉え、鼻血が顔を赤く染めた。大は常に前に出てプレッシャーをかけ、左ジャブ、右ストレート、左ボディの連打が出ている。篠原選手も手数は出すが有効なヒットがなく大が完全に距離をコントロールしていた。

後半、5ラウンドに入っても大のパンチヒット率が高く篠原選手の顔面も随分傷んできた。大の強烈な右ストレートが次々に決まり、篠原選手のダメージは大きい。6ラウンドでTKO決着かという状況だったが、篠原選手は頑丈でしぶとくダウンはしない。7、8ラウンドも大は相手をロープに押しつけ連打を浴びせたが判定結果となった。

フルラウンドを戦い、3人のジャッジの判定は3人ともに79-73の6ポイント差で大の完勝だった。



おやじのひとこと



大はアマチュア経験もなくボクシングの世界に飛び込んで10年という歳月が流れた。人生の一番多感な10代後半から20代後半である。私にとっては仕事の傍ら自分の同年代を思い出しながら後楽園ホールのリングサイドで息子の試合を見つめる10年でもあった。

私はボクシングは自己犠牲の一番強いスポーツだと感じているが、大は昨年の東洋太平洋王座決定戦に敗れた後に右目網膜剥離手術と踏んだり蹴ったりだったが、新たな第2ステージとなった今年の6月、10月の試合は安定した戦い方で完勝だった。ボクサーにとって最も重要な、「考えながら動き、動きながら考える」という自らの考えで戦局を変えていくということが出来つつある。来年もリングサイドで夢に向かって前進する息子の試合を楽しみにしている。